

花巻市 博物館だより

HANAMAKI
CITY MUSEUM



No. 76

2025.8



花巻市博物館HP



Facebook



Instagram

目次

▶ P 1 特別展「佐川美術館コレクション 平山郁夫展」 ▶ P 2～3 テーマ展「戦後80年 戦争と花巻」

▶ P 4～5 特別展「佐川美術館コレクション 平山郁夫展」 ▶ P 6 活動レポート「楽しく活動！GW体験講座」

▶ P 7 館長コラム・インフォメーション ▶ P 8 花博コレクション



月下シルクロードを行く〔紙本、彩色、2001年〕

ひらやまいく お

ひばく

日本画壇を代表する平山郁夫（1930－2009）は、広島県に生まれ、戦争や被爆の体験をきっかけに平和への祈りを制作に込め、仏教伝来やシルクロードを生涯のテーマとして描き続けました。また、失われゆく世界中の貴重な文化遺産を守るため、文化財赤十字構想を提唱し、中国やアフガニスタンなど各地の文化財保護活動に尽力しました。

終戦から80年が経った今日、平山作品を通してシルクロードが繋いだ悠久の歴史に思いを馳せ、国内外の文化遺産を守り伝えることや平和について考える機会となりました幸いです。

令和7年度花巻市博物館テーマ展

「戦後80年

戦争と花巻」

令和7年7月5日(土)～8月24日(日)

序章 戦争の足音が忍び寄る

昭和元年（1926）12月25日、激動の時代「昭和」が幕をあけました。

第一次世界大戦や関東大震災の影響で日本経済が混乱する中、昭和4年（1929）に発生した大恐慌が世界に暗い影を落とします。不景気を背景に、ドイツやイタリアではファシズムが台頭しました。

日本においても、豊富な資源を求めて満州への支配を強めようとし、日中間の軋轢が深まってきました。

1 日中戦争のはじまり

昭和6年（1931）9月18日、満州事変が勃発します。5か月ほどで関東軍は満州のほぼ全土を占領、翌年には清朝最後の皇帝愛新覚羅溥儀を執政とする「満州国」建国を宣言させました。これにより世界からの孤立を強めた日本は、ドイツやイタリアに接近していきます。

昭和12年（1937）7月7日に発生した盧溝橋事件を引き金に、日中両国は全面戦争へと突入します。日本軍による南京での大虐殺や、遷都した重慶への爆撃などが行われた日中戦争ですが、日本は中国へ宣戦布告をしていません。宣戦布告することでアメリカが軍需物資の輸出を禁止することが目に見えていたからです。日本は石油や鉄などの資源をアメリカに依存しながら、中国と戦争していたのです。資源不足という国家的な弱点が、その後の南方進出へと繋がる要因となりました。



内村皓一「城門の朝」（昭和16年～昭和19年）

岩手を代表する写真芸術家内村皓一は、戦中の奉天の街やそこで生き抜く市井の人々の姿を撮影しました。

戦後、それらの作品は世界各国のサロンなどに入選。戦禍を生きた当時の人々や街の様子を今に伝える貴重な写真です。

2 太平洋戦争勃発

日本海軍の機動部隊は昭和16年（1941）12月8日、米海軍の基地があるハワイ真珠湾を奇襲攻撃し、アメリカの太平洋艦隊に大損害を与えました。この直前、陸軍は英領マレー半島に上陸して英軍を攻撃。シンガポールを目指して南下を開始します。こうして、太平洋戦争の火蓋が切られました。

日本はこの戦争において、「大東亜共栄圏」の建設を掲げ、アジアにおける民族共存、欧米支配からの独立を目指しましたが、その一方で、占拠した地域にその支配を浸透させていきました。日本軍の強制労働などによって、多くの現地の人々が亡くなっています。

当初、快進撃を続けていた日本軍でしたが、ミッドウェー海戦やガダルカナル戦での敗北により、戦局が転換します。日本軍は、太平洋の島々で次々と玉砕していきました。

サイパンやグアムの陥落により、日本本土はB29の空襲にさらされます。また、フィリピン・レイテ沖海戦では、海軍の神風特別攻撃隊が初めて出撃し、以降数多くの特攻隊が編成されるようになります。

3 銃後の暮らし

太平洋戦争が本格化していくと、国民生活も大きく変化しました。とくに、軍需生産などに携わる労働力や兵力の不足は深刻で、学生や生徒は学徒勤労員として徴用されるようになります。また、未婚の女性は女子挺身隊として工場などで働くことになりました。

文化面においても、軍国色の強いものが主流になっていきます。戦意高揚を図るために、作家や画家に、日本軍の活躍や戦争を賛美するような作品を作ることが強要された時代でした。

また、昭和19年（1944）になって本土空襲が激しくなると、大都市の子どもたちは親元を離れ、地方への学童疎開が行われるなど、子どもたちをも巻き込んで戦争が行われたのです。



青い目の人形
昭和期
花巻市立若葉小学校蔵

戦前、日米の友好親善のために、アメリカから日本の子どもたちに贈られた「青い目の人形」でしたが、戦時中は敵国の人形ということでそのほとんどが処分されてしまいました。

本資料は、市内に残る貴重な青い目の人形です。

4 大日本帝国の終焉

昭和20年（1945）3月10日、死者10万人にも及ぶ東京大空襲が行われました。さらに4月には米軍が沖縄本島に上陸、多くの民間人を巻き込む悲劇的な地上戦が始まりました。

そして8月6日広島に、9日長崎に原子爆弾が投下されました。両都市の市街地は壊滅し、20万人を超える犠牲者が出ました。

長崎に原爆が投下された翌日、花巻でも駅前を中心に米軍機による空襲が行われました。この空襲により50名近い犠牲者が出ています。また、現在の上町、双葉町、豊沢町などの広い範囲で火災が発生し、当時の花巻町全戸数のおよそ5分の1に及ぶ家々が焼失してしまいました。

戦時中、和賀郡藤根村後藤（現北上市和賀町後藤）には、岩手陸軍飛行場、通称後藤野飛行場が建設されました。終戦間際には陸軍特別攻撃隊「神鷲第二五五隊」が配備されていました。

8月9日、釜石での二度目の艦砲射撃を受けて、3機の特攻機が出撃します。うち1機はエンジンの不調でやむなく帰還しましたが、他の2機はそれぞれ宮城県と福島県に墜落し、搭乗していた特攻隊員たちが戦死しました。

本展では、福島県原町（現南相馬市）に墜落した機体の一部を特別に展示しています。墜落後、地元の方によって保管されていた本資料は、その後南相馬市博物館に収蔵されました。



特攻機九式双発軽爆撃機 昭和期 南相馬市博物館蔵

中央に空いた大きな穴やひしゃげた側面からは、墜落時の衝撃の大きさを窺うことができます。

昭和20年に出撃して以来はじめてとなる、岩手での展示となります。

全国各地での空襲、原爆の投下、そしてソ連軍の満州への侵攻などを経て、8月15日多くの犠牲者を出した太平洋戦争が幕を閉じました。

おわりに

「世界がぜんたい幸福にならないうちは 個人の幸福はあり得ない」

これは宮沢賢治が『農民芸術概論綱要』のなかで述べた言葉です。

多くの尊い命が失われた太平洋戦争が終結してからも、世界では戦争や武力衝突が絶える事はありませんでした。今もなお、世界のどこかで、武力により傷つけられ、心身の安全や日々の生活を奪われている人々がいます。

過去の戦争の歴史や、今、世界で起きている戦争に目を向けることをせず、自分ひとりの利益を求めるだけでは「世界がぜんたい幸福に」はなり得ないでしょう。これからの平和のために私たちは何をすべきなのか、賢治のこの言葉は、私たちに多くの課題を投げかけているのかもしれない。

（学芸員 松橋香澄）

◆関連イベント

◆特別上映会

「戦争の足跡を追って

北上・和賀の十五年戦争」

監督：都鳥 伸也氏（登壇）

日時：令和7年8月11日（月祝）

13時30分～16時

場所：花巻市博物館 講座体験学習室

定員：40名（入場無料、要申込）

申込方法：博物館ホームペー

ジの専用申込フォ

ームまたはお電話

にてお申込みくだ

さい。

申込期限：令和7年8月10日（日）

16時30分まで（定員になり

次第締め切ります）

◆ギャラリートーク

日時：令和7年8月9日（土）

13時30分～

場所：花巻市博物館 企画展示室

（要入館料、予約不要）



特別上映会

令和7年度花巻市博物館特別展

「佐川美術館コレクション 平山郁夫展」

令和7年9月6日(土)～11月3日(月祝)



平山郁夫

本展では、平山郁夫をはじめ、彫刻家の佐藤忠良、陶芸家の楽直入を中心としたコレクションで知られる滋賀県の佐川美術館の所蔵作品から、悠久の歴史に彩られたシルクロードを主題にして平山が描いた作品57点を紹介します。ヨーロッパと西アジアから、中央・南アジア、西域、中国、そしてシルクロードの終着点・日本まで、平山が150回以上もの旅をしながら描いた作品の数々、平山芸術の精華をお楽しみください。

第1章 シルクロードはじまりの地 ヨーロッパ～西アジア

平山が生涯にわたりシルクロードを旅し、描ききっかけとなったのは、昭和41年（1966）の東京美術学校（現東京藝術大学）の第一次中世オリエント遺跡学術調査団への参加でした。調査団の目的はトルコの Cappadocia 地域に7～14世紀頃にかけて作られた洞窟修道院内にある壁画の調査でした。この地で毎日スケッチを続けるうち、砂漠の見せる表情に太陽光線の違いで色や形、質感が変わって見えることに気づき、この変化の中に人間の営みや歴史の移ろいを感じました。

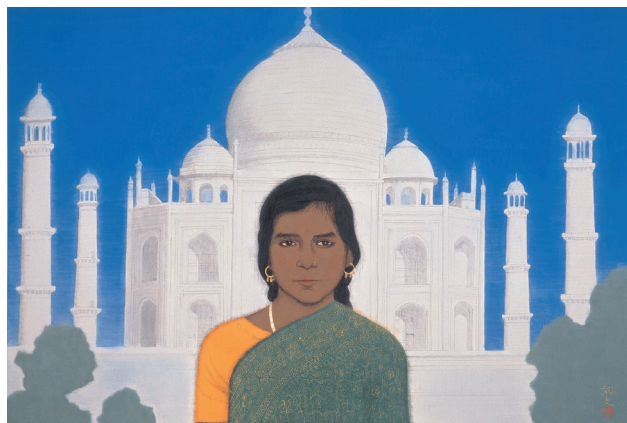
平山が生涯を通じてライフワークとした旅を始めるきっかけとなったヨーロッパ、イラク、アフガニスタンなど西アジアを描いた作品を紹介します。

第2章 文明の十字路 中央アジア～南アジア

昭和43年（1968）、アフガニスタン、中央アジ

アなどの取材に出発し、以後本格的にシルクロードをテーマにした作品の制作を開始しました。翌年には初めてインドを訪れ、仏教の開祖・ブッダゆかりの聖跡を精力的に巡りました。ブッダガヤでは、ブッダが悟りを開いたとされる菩提樹の下で自ら座禅を組みました。首都デリーでは、行き交う人々など心惹かれた町の様子を描いています。そして、ガンジス河で太陽の上る頃に沐浴をして身を清め、巡礼の途に就く人々に感銘を受け、その光景に悠久の歴史を感じました。

東西文化が交わり、悠久の歴史を物語る中央・南アジアを舞台とした作品を紹介します。

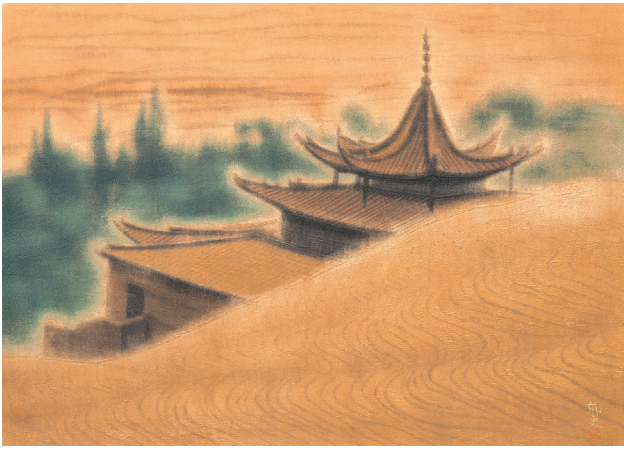


タージ・マハル（紙本、彩色、1998年）

第3章 西域

西域とは古来中国人が中国の西方にある地域を指して用いた言葉です。西域には、天山山脈、パミール高原、タクラマカン砂漠など、高山と砂漠が併存し、その過酷な環境から往来が困難な場所もあります。中国の僧・玄奘三蔵は、仏教伝来のその道を通り、艱難辛苦の果てにインドへ求法の旅をしました。玄奘の足跡を辿るようにシルクロードの取材旅行を始めた平山は、玄奘が体験した旅の厳しさを知るため、やがて楼蘭を目指します。

古代都市・楼蘭、世界最大規模の仏教遺跡・敦煌など、厳しい自然環境のもと、独自の文化が育まれた西域の光景が描かれた作品を紹介します。



敦煌莫高窟〔紙本、彩色、1991年〕

第4章 悠久の大地 中国

多感な時期に戦争や原爆体験をした平山は後に、画家として独自の表現を求める創作活動上の壁と次第に悪化していく被曝^{ひばく}による後遺症に苦しむ日々を送るようになりました。一枚でも心に残る絵を描きたいと強く願う中で、仏法の真理を求めシルクロードを命がけて旅した玄奘三蔵との「運命の出会い」が訪れました。この出会いによって失意の日々から立ち上がり、自身のテーマを確立していくことになります。

幾度となく訪れた中国では、玄奘ゆかりの地や名所旧跡をたどり、古代中国の壮大な力と、それを成し遂げた人々のエネルギーに圧倒され、歴史の重みに深い感銘を受けました。

仏教に救いの道を求めた平山の画業を支え続けた悠久の大地・中国の作品を紹介します。

第5章 シルクロードの終着点 日本

6世紀半ばに日本に伝わったとされる仏教は、奈良・飛鳥の地に根付き、その後日本は仏教国家

として歩み始めます。東大寺が建立された8世紀前半には、日本の仏教文化が最盛期を迎えました。東大寺正倉院に伝わる宝物には、ヨーロッパや中東などからシルクロードを通して中国へ、そして日本まで運ばれた品々も多く含まれています。平山は大和^{やまと}の寺々を巡るとき、日本がシルクロードの終着点であることを強く意識せずにはいられないと語っています。

平山が描いた日本の風景は、荒涼たるシルクロードとはうって変わり、潤いのあるみずみずしい緑あふれる景観でした。水と緑あふれる自然の中にたたずむ寺院の塔やお堂に美しい日本の風景を見出し、「詩情の精神^{しじょう}」をもとに、自らが美しいと感じる風景を描きました。

四季折々の表情を見せる自然や寺院の姿を中心に、ふるさと日本の風景を紹介します。

(学芸員 高橋静歩)

◆関連イベント

●記念講演会-1

「平山郁夫と文明の十字路口パーミアン」

講師：高橋信雄氏（花巻市博物館前館長）

日時：令和7年9月7日(日)

13時30分～15時

会場：講座体験学習室

定員：30名（※聴講無料、要申込）



記念講演会-1

●記念講演会-2

「平和を祈り描き続けた画家・平山郁夫 一その画業と生涯」

講師：藤井康憲氏（佐川美術館学芸員）

日時：令和7年10月4日(土)

13時30分～15時

会場：講座体験学習室、企画展示室

定員：30名（※聴講無料、要申込）



記念講演会-2

【申込方法】博物館ホームページの専用申込みフォーム、またはお電話にてお申込みください。

【申込期間】各開催日1か月前～前日まで

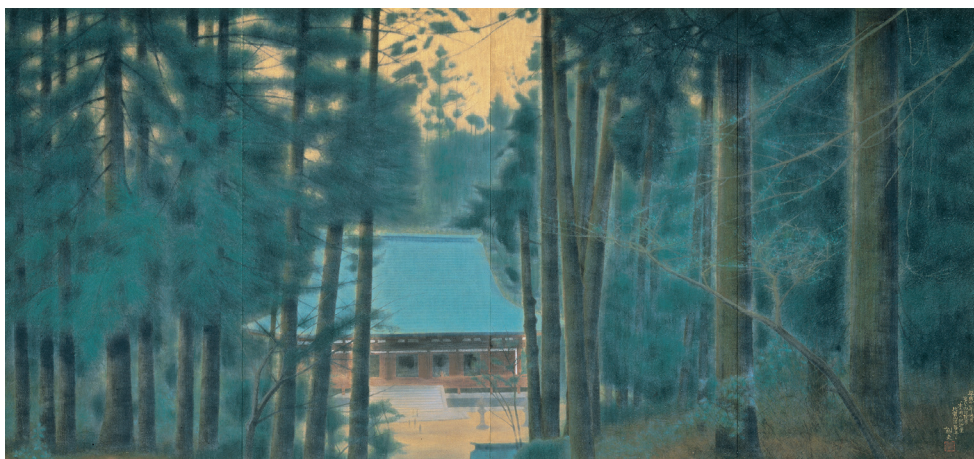
お知らせ

9月の土曜日（6・13・20・27日）は18時まで開館時間を延長し、成島和紙ランブシェードによるライトアップを行います。

（※入館受付は17時30分まで）



成島和紙ランブシェード



木の間の釈迦堂 比叡山延暦寺〔紙本、彩色、1999年〕

活動レポート

ゴールデンウィーク

楽しく活動！GW体験講座

花巻市博物館では、5月3日(土)から5月5日(月)の3日間、3種類のワークショップ体験活動を行いました。その様子を簡単にご紹介します。

① 勾玉づくり体験

日 時：5月3日(土) 13:30～15:00
参加者：33名(体験19名、付添14名)

始めに「勾玉とは何か」の説明を聞いてから常設展示室で勾玉の実物を見学。古代人の感覚に触れてもらいました。

部屋に戻って、作り方の説明を聞いたら勾玉作りの開始です。形を作るための削る作業が大変でしたが、大人も子どもも最後まで集中してがんばり、世界に一つだけの自分の勾玉を、楽しく作りました。



勾玉の実物を見学



削る作業

② 琥珀玉づくり体験

日 時：5月4日(日) 13:30～15:00
参加者：31名(体験20名、付添11名)

琥珀は、勾玉の石より硬くて削るのに時間がかかるため、「琥珀とは何か」の説明を聞いたら、早速琥珀玉づくりの作業を開始しました。

下書きをしたら、あとはひたすら削るのみです。大変だったと思いますが、紙やすりを使って少しずつ形が出来上がっていくほどに楽しさが増してきて、完成して紐をつけたときには、笑顔になっていました。



「琥珀」の説明



琥珀を削って形を作る

③ 縄文弓矢・火起こし体験

日 時：5月5日(月) 13:30～15:00
参加者：38名(体験18名、付添20名)

弓矢と火起こしの2つのグループに分け、交代しながら実施しました。始めに展示室で弓矢の歴史などの話を聞いてから外に出て、それぞれの体験を開始しました。



縄文弓矢の説明

縄文弓矢体験

では、構え方や弦の引き方を確認した後、短い距離から始まって、徐々に的までの距離をのばしていききました。長い距離でもあきらめずに、全員がルールをしっかり守って、安全に楽しく弓矢的的に当てる体験ができました。



的をねらって弓を引く

体験ができました。

火起こし体験は、「まいきり」という、火を起こすための道具を動かして種火を作り、それを燃えやすい材料のものにつけて火を起こすところまでの体験です。「まいきり」の扱いは大人でも難しいので、簡単には火をつけられないと最初に伝えました。そのため、誰かが火起こしに成功したときには、周りから賞賛の拍手が起こりました。



協力して火おこし中



火がついた！

どちらの活動も参加者の安全意識が高く、安全に、楽しく行うことができました。

館長
コラム

馬っこつなぎ

毎年6月15日に花巻市大迫町内川目の久出内集落で行われている馬っこつなぎ。お天王さんの祭日に行われる行事であり、昔は北上山地一帯で盛んであったと言われるが、集落単位で続けているのはここだけになったという。お天王さんとは「牛頭天王」のこと。神仏習合が盛んだった時代には、疫病退散の神として全国的に信仰が篤かったが、明治初期の神仏分離令によって、牛頭天王社は同一神とされたスサノオノミコトを祀る八坂神社や八雲神社、津島神社などに代わっている。久出内集落の入口には八坂神社があり（現在はダム建設により東方に移転）、地域一帯の氏神様となっている。

当日は、早朝暗いうちから集落内の神社や田の水口・畑の畦・井戸などに、雌雄のワラ馬を竹や棒などに結わえて置いて歩く。ワラ馬の口にはうるち米の粉を溶いたシット

ギや酒粕などを、葛や笹の葉などに包んで口にくわえさせる。以前は豆の葉に包んでいたというが、行事が新暦になってからは豆の葉が出る前に始まるため、葛の葉などを使うようになったらしい。ワラ馬の代わりに木版刷りの紙馬を笹竹に差して立てる家もあった。

この行事は、冬に山に帰っていた山の神様（お天王さんともいう）が、春になって山から降って農神様となり、農作物の生育状態を見て歩くために乗せる馬であるとか、農耕に使われていた馬に感謝するものとも言われている。

久出内集落の馬っこつなぎも、5年前に取材した時には4軒の家で行っていたが、今年聞き取りをしたところ、ワラ馬作りをしているのは伊藤せい子さん（82歳）一人だけになっていた。それでも、せい子さんは昔からの行事を絶やすことはできないと、娘さんに作り方を教え、冬の間に二人でワラ馬を作って祭日に備えていた。

どこか同じニオイのする「チャグチャグ馬コ」が毎年華やかに行われるのとは対照的に、このような素朴な民俗行事が衰退していくのを見るのは寂しい。集落内で続ける家が出てくれることを願わずにはいられない。

令和7年8月～11月の行事予定

【企画展示室】

- テーマ展「戦後80年 戦争と花巻」
会 期：8月24日(日)まで開催
- 特別展「佐川美術館コレクション 平山郁夫展」
会 期：9月6日(土)～11月3日(月祝)

【ワークショップ】

- ◆鍛冶丁焼つくり
日 時：10月19日(日) 13：30～15：00
定 員：15名 ※要申込
材料費：1,500円
申込期間：9月19日(金) 8：30
～10月18日(土) 16：30
- ◆台焼つくり
日 時：11月9日(日) 13：30～15：00
定 員：15名 ※要申込
材料費：1,500円
申込期間：10月9日(木) 8：30
～11月8日(土) 16：30



鍛冶丁焼つくり



台焼つくり

◆成島和紙ランプシェードつくり

日 時：11月23日(日祝) 13：30～15：00
定 員：20名 ※要申込
材料費：1,000円
※LEDランプ希望の場合+150円
申込期間：10月23日(木) 8：30
～11月22日(土) 16：30



成島和紙ランプシェードつくり

【講 座】

◆館長講座－2「花巻の中世城館の見どころ」

日 時：10月12日(日) 13：30～15：00
定 員：30名 ※要申込
費 用：無料
申込期間：9月12日(金) 8：30
～10月11日(土) 16：30



館長講座－2

※講座の参加申込みはオンラインまたはお電話にてお申込みください。

※各ワークショップ・講座の会場はいずれも花巻市博物館講座・体験学習室です。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松第26地割8番地1
電 話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050
開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで
休 館 日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※()内は20名以上の団体割引料金です。

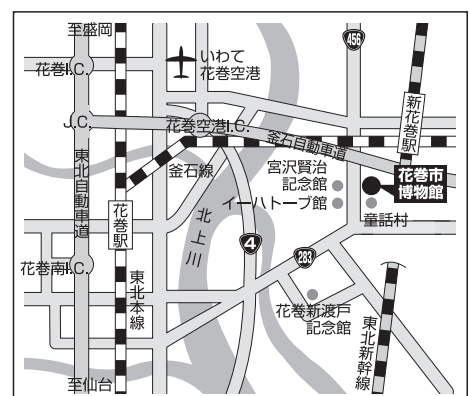
※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、別に入館料を定める場合があります。

URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1019887/1008981/index.html>

交通案内

- ◆バス
新花巻駅→賢治記念館口
コミュニティバス 土沢線
シーナシーナ花巻前行…約5分
花巻駅→賢治記念館口
コミュニティバス 土沢線
道の駅とうわ行…約20分
- ◆車
花巻空港ICより…約10分
- ◆徒歩
新花巻駅より…約25分



HANAHAKU

花博コレクション

COLLECTION

「刀」 表銘／信國拾八代孫新藤源義國造之・裏銘／研あげて地金のうつり詠むれ八やきはの句春の明ほの
寸法／刃渡62.7cm、反り3.9cm（寄託資料）

盛岡藩お抱えの打物（刀）鍛冶は、盛岡藩四代藩主南部重信の治世、江戸時代中期の延宝期に筑前福岡を出て江戸で修行中であった国（國）義を召し抱えたことに始まります。国義は苗字を許されて代々、姓を新藤と名乗り現代まで引き継がれています。この作品を制作した義国は初代国義から数えて八代目ですが、さらに国義の祖である信国から数えて十八代目にあたることから差表銘に「拾八代」と刻んでいます。義国の鍛えた年紀在銘の刀剣は、江戸時代末期の文久2年（1862）から明治40年（1907）まで残されていますが、この刀の特徴や銘の切り方から幕末の慶應期の作と思われます。刀の価値と見どころは刀身と茎に別れます。

刀身は鎚造で庵棟、身幅や重ねは中庸で中反になっています。やや曇りが生じているものの刀身の



命とも言える地金は小板目風で、刃文は直刃に句出来。銚子は大峰で切先は小丸に返ります。刀身の表裏には棒樋が彫られており、茎尻まで掻き通しており、非常に珍しい造作です。さらに刀身の表裏には添樋も彫られています。

茎は生で、鑢目は化粧鑢で茎尻は入山形です。目釘穴は斬撃の衝撃に耐えられる様に2ヶ所に穿けられており幕末期の刀の特徴でもあります。なお、裏銘には細鑿で詠んだ句の内容は、おそらく研師に仕上げの研ぎを依頼した後の状態ではなく、打物鍛冶による最終段階の研ぎ（鍛冶押し）の段階で、刀身の地金に映ったやきは（焼刃）＝刃文が「句出来」であったことを意味しています。「八」は「也」でしょうか。また、「春の明ほの」は作刀の時季が旧暦の春の日（二月）の明け方であったことを表したことが窺えます。一般的に焼き入れした刃文は白い粒状の「沸」になっています。また、「句」は「沸」に伴う霧や霞のような細かい粒子で、刃先に向かって徐々に淡くなっていきます。刃文にはこのどちらかが強く出た状態から「沸出来」とか「句出来」とかと表現しています。

打物鍛冶は刀の姿、地金、刃文、そして茎を整えます。その次の段階の研師はさらに姿を整え（場合によっては刀身に樋や彫物を入れます）、地金や刃文の特徴を引き出します。この作品の本来の拵はなく休鞘に収められていますが、付属している一重鍔は銅に銀着となっていることから代々の所持者に大切に引き継がれてきたことでしょう。

（学芸調査員 似内啓邦）